

第四回平林木材祭りを再開発の機会にしよう

五月十一日に大阪市住之江区平林にて第四回木材祭りが開催されました。今回初めて地元の衆議院議員柳本卓治氏と大阪市長平松邦夫氏が来場され、お祝いのお言葉を頂きました。



柳本卓治衆議院議員



平松邦夫大阪市長

第四回目にして政治家の先生が平林まで挨拶に来てくれた事は、大変喜ばしいことです。市長は朝早くからボートで平林の全く使われていない水面を視察された事は大変有意義な事だと思います。

平林と言う場所についての私の記憶は昭和四十年に大阪市大正区小林町から、集団で移転してきたのですが、その当時は夏になると凄い蚊の群れに悩まされました。又交通手段は一時間に一本しかないバスに頼らざるを得なかった思いがあります。しかしその当時の木材業者は昭和四十五年に開催される万国博覧会のおかげで凄い木材需要があり、街は活気づいていました。それから昭和四十八年のニクソンショック昭和四十九年のオイルショック等乗り切り何とか今まで残ってきたのです。しかし残ってきた木材関連企業はピークを昭和四十五年とすれば五分の一以下になったと思います。例えば賃挽き工場は現在3社しか残っていません。ピークは30社位あったと記憶しています。約十分の一です。それだけ材木業者は落ち込んだ証拠です。

ところで現在の平林は、東京の新木場と違う点の一つがあります。それは土地の地権です。東京の材木屋は自社地です。しかし大阪の平林の土地及び水面全体の約60%が借地です。つまり大阪平林の大多数の木材業者は資産価値の無い場所で商いをしているのです。資産価値が無いと言う意味は銀行に担保に入れられない事です。

現在木材産業は新しい一歩を踏み出さねばならない状態になっています。それは多分業態変更と言う事だと思います。【木材産業にとっての業態変更とは、人間の健康に一番優しい木材資源を消費者目線で如何に上手く使って頂く為の仕組み作りだと思います。】その為には新しい何か具体的に行動しなければいけないと思います。その為には設備投資等の資金が必要になります。】

ところで現在計画されている阪神高速道路大和川線の工事用の土で一部水面を埋め立てる話で平林の再開発が模索されています。使われていない水面を再開発することは大変有意義なことだと思いますが、今まで以上に資産価値を上げることを考える必要は無いのでしょうか。もし借地から自社地になれば会社の力にプラスになるのではないのでしょうか。

今回の堀の埋め立て事業は、木材業者のあらゆる利害関係を乗り越え一致結束し行動していかなければ無いです。それが消費者目線で物を考えられる企業に生まれ変わる事になると思います。

中国レポート(最終回)

6、食編

製材工場の裕福な経営者に夕食をよばれましたが、味は中華料理そのものです。その中の食材にメインデ
ィッシュにスズキ料理とチヌ料理が出ましたが、何か食べ応えが悪いのです。煮魚の料理ですが何か違和感の
有る味なのです。

又味付けはともかく、養殖なので身のしまりが無く食べ応えの無い料理でした。逆に昼食で食べた海の魚
のから揚げ料理のほうが大変食べ応えのある料理でした。日本人みたいに裏味とか、隠し味とかは全く無く、
旨みの少ない料理が殆どでした。

後で解かった事ですが、スズキとかチヌは福建省付近で養殖しているとの事でした。現地で日本料理店を
長く経営する日本人に聞きました。

ギョーザ事件ではないですが、中国国内での養殖は、何が使われているのかが、我々中国に長く生活してい
る者も中身は解りませんよとのお言葉でした。例えば大量の抗生物質を与えて育てているかの様な事を言わ
れていました。



左記の写真は生れて初めて食べたペキンダックですが、味は
大変美味しかったです。しかしどう言う餌を与えて育てている
かは、解りません。

本年はペキンオリンピックの年ですが、参加する欧米の有力
選手がキャンプを日本で張るのは確かに理解出来ました。

昨今の日本の食材は、トレサービリティも充実し安全な食事
は
選手たちのエネルギーの源となるからに他ならないと思いま
す。

7、丸秘編

中国シッパーに夕食をご一緒させて聞いた話、中国のカラオケ屋に行って聞いた話、そして昔中国人と商売
をしていた私の義理の父に聞いた話を、中国通の私の友人に話をしました。そこで大変貴重な話を伺いました。
その内容は、アメリカ・カナダ等に友人のいる比較的裕福な中国人の子供達は、大学に入る年になれば、多少
無理してもアメリカ・カナダに留学させるのです。そしてその傾向が顕著に増えています。と言うのです。

現在中国は共産党一党独裁ですが、凄く公務員の賄賂が横行します。又自分の目で確かめてきました。【新
幹線が新しく作られる場所が解っているのに、そこに立ち退き料をもらう為に立派な建物を建てている。】何
か揉め事が起これば、直ぐ金を要求する政治状況が厳然と存在しています。そして事業をしている彼らもそれ
を利用しているのです。仕方なく必要悪だと認識しているように見えました。少しは良識有る中国人は、有る
意味外国に拠点を作っておいたほうが、安全だと考えて、無理しても子供達をアメリカ・カナダ等に留学させ
るそうです。そして大学を卒業し、社会人になって一本立ち出来るようになれば、引越すのだそうです。

新聞とか、テレビ等のマスコミで先進国に留学している学生が、オリンピックの聖火を守るために、中国頑
張れと色々発言していますが、あれはあくまでゼスチャーです。今反中国と言う姿勢を見せたら、二度と外国
に出られなくなるので、あえてカモフラージュさしているのです。その証拠はアメリカ・カナダを拠点に仕事
で頑張っている社会人たちが、メディアで発言していない事を見ても解ると思います。

中国レポート纏め

**現実には共産党員の中国人の数は決して多くは有りません。又国そのものを信じていない方が多くいます。
又政治的に報道が制限され、我々がテレビ等で目にする本当の中国と現実はかなり違うと思いました。**

日本のマーケットは魅力がある



左記の写真は大阪市大正区鶴町に建設中のイケアです。イケアとは、スウェーデンの大手家具チェーン店です。世界の33の国と地域に合計241店舗を展開し、現在日本でも2店舗がオープンし、話題を集めています。

今日本国内の家具の小売店は売れ行きが、非常に悪く閉塞状況に陥っていると、小売店に収めている私の友人の家具メーカーの社長に聞いております。しかしこんなに売れ行きの悪い日本に何故彼らは進出してくるのでしょうか。それは日本のマーケットが魅力あるからに他なりません。儲からない物に決して彼らは投資しません。

ところでイケアと言う店が、今の日本人の欲しがっている商品を全て取り揃えているわけではないです。どちらかと言うと安物が大半です。決してオールマイティの商品ラインナップのお店では有りません。

しかし我々が考えねばならないのは、遊び心を誘うお店作りだと私は思います。私は以前大阪の南港の大塚家具に商品を見に行ったとき、店員が寄り添い一々説明してくれるのを経験しました。その時冷やかしと言う遊び心がお店に全く無かった事でした。イケアと言うお店は、店員が少なく冷やかしに行っても気を使いません。そう言う遊び心を操るお店が有れば、繁盛するのではないのでしょうか。

イケアは確かにライバルになると思いますが、相手から学ぶ事も多くあると思います。それを学んでいけば、量から質への転換期にある日本のマーケットはまだまだ捨てた物では無いと思います。

(この写真はせんちびーどさんから頂いた写真を使わせて頂きました。)

大手建材メーカー様訪問

私は建築士さんと勉強会をしています。その機会に岐阜県高山市に有る大手ドアメーカーのコムラックスさんを訪問させていただきました。先方の社長さんと工場長さんから工場現場をくまなく案内して頂いたことに感謝します。

訪問して大変面白いことに気づきました。と言うのは工場を見せていただいた後ミーティングでのやり取りでした。ドアの事や昨今の住宅メーカーのニーズ等突っ込んだ話が、事細かく建築士さんと社長さん、工場長さんと凄く盛り上がるのです。建築に直決する専門用語が飛び交っていました。私は横でただ聞くだけでした。建築士さんが話しするのと、私たち材木業者がメーカーさんと話をするのと全く雰囲気が違うのです。我々が話をする壁みたいな物があるのですが、それが全くないのです。双方にプラスになる話だったと思います。その雰囲気の事を帰りの車中で建築士さんに聞くと、それは役得かなーと言っていました。

帰りの車中で建築士さんにコムラックスさんの印象を聞くと大変喜んで頂きました。本当の物作りの現場を見たことで、新しい発想が生れてきそうだと感じて頂きました。



今回の訪問で解ったことは、私の中国レポートに有りますが少し位の値段の差なら国産メーカーの物を使うほうがお施主様目線で見たと、正しいし又日本の物作りの能力が決して衰えていないことでも有りました。

又日本の気候風土を考えた時、住まい作りには外国製品には出来ない事が殆どだなーと思いました。

量から質への転換点にある日本にはメイドインジャパンが一番合うのだと感じました。

仏教的な考え方が今の日本人に求められているのでは

服部新聞の新年号で法話の内容を書きましたが、今回もお寺で聞いた法話を皆様には是非聞いて頂きたいと思いいペンを執ります。

法話の主な内容は『命』です。命とは一体何なのか？人間はただ生きているだけなのか、と言う問いでした。

生→死 生まれたての幼児も100歳の老人も条件は一緒です。

お寺のお坊さんがある小学校六年生の作文を私たちに聞かせて頂きました。その内容は、私たちは食事の時何も考えずに口に入れていますが、本当は、お魚さんの命を頂いているのです。お米さんの命を頂いているのです。タマゴさんの命を頂いているのです。私たちが生かさせて頂いているのは、皆様の命を頂いているからで有って何物でもないのです、お魚さん、お米さん、タマゴさんありがとう。

我々は命を頂いて生かさせているのであって、生きる→殺しているのです。だから感謝して頂きますと言うのです。決して必要以上食べてはいけないのです。

家に帰った後、私の子供に同じような質問をしたのですが、多少は何となく解っていましたが、生きる→殺しているのです。は理解出来なかったです。

生は正しくて死は不吉な事ではないのです。我々は数えられない命を頂いて、一生を終わるのです。例外はないのです。死は生の始まりでもあります。例えば木の葉は、木からいずれ落ちます。そして腐って土に戻ります。つまり生れ変わるのです。

私だけは死なないと思っている心は、迷っているのです。(道に迷っている人は道を聞かないのです。道に迷っていると気づいた人は道をたずねるのです。) その証拠は大阪のキリスト教病院のホスピス病棟【ホスピス病棟とは死の宣告を受けている方を受け入れる施設】の入院患者の方の、自分の死を受け入れて亡くなって行く方は30%しかいないのです。どれだけ人間が勝手な生き物かは解ると思います。

ところで私は服部商店ポータルサイトで会員制のSNS（ソーシャルネットワーク）を運営していますが、その中で皆様には是非聞いていただきたいと思うことが、有りました。それはワンダーチャイルドさんの日記です。

侘びとは

先日時期 JIA の会長になられる出江寛さんの講演で興味ある話がありました、日本人なら誰でも知っている「侘び」これを言葉で説明するのはなかなか難しい、武野紹鴎は利休に対して侘びるとは「正直で慎み深く奢らぬ様を言う」と説いている、これを建築に当てはめると正直な素材をもちいて慎み深く奢らぬデザ インをせよということになる。という話をされました。いいはなしなので書きました。

昨今の建築では侘びの世界は望めませんが少なくとも正直な素材をつかいたいものです。

私たちは私たちの勝手な思いの物を作って使ってはいませんか。産業廃棄物にしかならない物を多用し、そして其れが大量の二酸化炭素を出し、温暖化と言う現象が地球全体に悪影響を及ぼし、そして我々一人一人に悪影響を及ぼしかけているのに、全く危機感のないのはどうでしょう。少し位は「侘び」と言う言葉を頭の中のだどこかに入れて多少は辛抱する生活も悪くないのではと思います。

我々は先ほども述べましたが、数えられない命を頂いて暮らさせているのですよ。多少ともワンダーチャイルドさんの言う「侘び」と言う事を頭に入れて行動する必要が有るのでは有りませんか。

我々は微生物から全ての生き物のおかげで存在しているのです。そのおかげによって生かされているので有ってワンダーチャイルドさんの侘びの精神で物作りをもう一度原点から立ち返り本当に自然界からも喜ばれる住まい作りとか、物作りをしていかねばならないように思っています。